

薬草園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2017年
5月29日
第9号



ヨウシュメハジキ (シソ科)

ヨウシュメハジキは、マザーワートの名でも知られて、主に地中海沿岸地域に分布している。広く女性疾患に用いられたのでマザーワート（母の草）の名が！ヨウシュメハジキは、地上部を民間薬として長期の子宮出血、子宮内膜炎で起きる粘液分泌物および産後のおりものが止まらない時に用いる。

ヨウシュメハジキと近縁種に、日本で自生しているメハジキがあり、花期の地上部をヤクモソウ（益母草）と呼ぶ生薬として芍婦調血飲などの漢方薬に配合して用いる。メハジキは『万葉集』に染料として使われている歌があります。

メハジキもヨウシュメハジキも、全草にレオヌリンというアルカロイドを含み、生薬ヤクモソウの指標成分となっています。

ウツボグサ (シソ科)

ウツボ「鞆」とは、かつて武士が矢を入れて持ち歩いた細長い筒のことで、通常は長い竹籠で作り、その外側に熊や猿などの毛皮、鳥の羽などを張ったものです。この植物の花穂がウツボと似ているから名付けられたとされます。魚のウツボとは関係ありません。

ウツボグサの花穂をカゴソウ（夏枯草）と呼ぶ生薬として用います。名前の由来は、葉は緑色なのに花穂だけカサカサに枯れることから。カゴソウは日本の漢方薬では使用せず、民間薬として利尿などの目的に用います！。枯れないうちにお急ぎください。

今、こんな草木が楽しめます
待ってまーす！！

